

2020. 10. 23

大フォーラム埼玉会場向け

埼玉障害者市民ネットワーク

代表 野島久美子

私たちは埼玉障害者市民ネットワークといいます。「障害のある人も、障害のない人も地域で共に」を合言葉に活動しています。

毎年浦和の街で「ちんどんパレード」を行っています。

「わけないで！ わけないで！ お国の都合でわけないで！」とか「いきている！ いきている！ 街の中でいきている！」などの掛け声で歩きます。

2012年2月9日に「冬のチンドン」と銘打って浦和でパレードを実施しました。

このパレードは、『障害者制度改革推進会議』の『総合福祉部会』が前年8月30日に出した『障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言』（骨格提言）をうけて、厚生労働省が年度内に法案化に向けた動きに対して、骨抜きにされないように一般市民やマスコミにも理解してもらおうと訴えたものです。

シュプレヒコールは「骨格提言を骨抜きにするなー！」、「私たちのことを、私たち抜きで決めるなー！」「地域で暮らすぞー！」などでした。

そして、毎年10月に日比谷で開催される大フォーラムに参加を続けてきました。政権与党と厚生労働省は「骨格提言」を無視していますが、この骨格提言は私たちの要望や思い入れが詰まったものだと思います。

この大フォーラムはその主張をゆるめないで、ずーっと続けることが大切だと思います。

最近の私たちの関心事は、コロナ禍であり、優生保護法と強制不妊手術であり、出生前診断であり、安楽死問題です。

コロナ禍は私たちにはマスクや消毒などでの防衛しかできません。

その後の件は、すべて「不良な子孫を残さない」という優生保護法の目的にそったことであり、差別思想いっぱいのものであります。

私たちは、埼玉でも「出生前診断反対」「安楽死・尊厳死反対」をいいつづけていきます。

全国の、大フォーラム参加の皆さんと一緒にたたかっています。